

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関名：京都教育大学連合教職実践研究科 連携機関名：京都府総合教育センター
	事業名：【NITS・京都教育大学教職大学院コラボ研修】 「学校・教職員・子どもの『自律』と『協働』を強化する学校経営」講座
	研修等名 「学校・教職員・子どもの『自律』と『協働』を強化する学校経営」講座
	開催日時：令和5年11月24日（金） 10:30～17:00 開催場所：京都府総合教育センター（京都府京都市伏見区桃山毛利長門西町1-3） 参加人数（総数）と参加者の属性：合計48名 （内訳）小学校教員22名、中学校教員15名、高等学校教員8名、特別支援学校教員3名

内容： ※全体発表の内容をテブ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

京都府下の学校管理職を目指す学校教員を対象として、上記講座を以下のような内容で実施した。

○第1部 10:30～12:30

オリエンテーションの後、自らの教育理念の再考や勤務校の組織の分析したレポートによって、受講者によるグループ協議を行い、次の講師2名が指導助言した。

コーディネーター・助言者

笠沙 知章

京都教育大学大学院連合教職実践研究科教授

講義・指導助言

木岡 一明

学校経営コンサルタント、日本教育経営学会会長、元名城大学教授
大阪キリスト教学院 OCC 教育テック総合研究所上席研究員

○第2部 13:30～15:00

「地域とともにある学校の実現～学校・教職員の『自律』と『協働』～」をテーマに、下記のパネラーの発表及びパネルディスカッションを行った。

パネラー

梅原 牧子

京都府綾部市立志賀小学校教頭

名島 貴子

京都府木津川市立木津南中学校教頭

近本 大作

京都府立須知高等学校副校長

○第3部 15:00～17:00

木岡一明氏による「学校・教職員・子どもの『自律』と『協働』を強化する学校経営」の講義にて理解を深めた後、講師より本日の講座内容のまとめを行った。講義では、教育をマネジメントする特殊性、学校における働き改革、教育の近未来的展望や、学校の組織力向上等について解説した。

成果：（事後アンケートより）

- ・自身の教育理念をあれこれ考えたことは、メタ認知につながったし、他の先生の理念も参考になることが多かった。
- ・教頭の仕事に対して自分の中では魅力あるものに感じることはできなかったが、研修を経て、学校を変え、先生を守り助けることの仕事の働き甲斐を見つけた
- ・教職員一人ひとりが自律性を高めるために、校内教職員間をつなぎ、「教えがい」を持てるような学校組織を構築することが、管理職に求められる力だと感じた。
- ・分散型リーダーシップを実現するためにも、特に若手教員との関係構築や働きがいの向上心等を心掛けたい。
- ・児童生徒だけでなく、教職員一人一人の「自律」について改めて考える機会となりました。

アイデアや工夫したこと： ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ・パネルディスカッションは、新任管理職（副校長・教頭）をパネラーとし、管理職と教諭との違いなど思いや考えを話してもらった。
- ・パネラーの思いや考えは受講者の不安そのものであり、より増幅させることも考えられるが、自分がどのような資質能力を向上させればよいのか明確にもつことができたことが効果的であった。
- ・管理職としての視点をもつ意識を向上させるために、自らの教育理念の再考や勤務校の組織の分析したレポート課題を課し、その改題に関する協議時間を多くとるようにした。校種別、人数細分化により、より協議や質疑し易い状況を作ること、学びの深まり、心構えの形成、心的負担の軽減となった。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



竺沙教授から講座の趣旨説明



グループ協議の様子



パネルディスカッション遠景



パネルディスカッション近景